

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090500093		
法人名	社会福祉法人 双葉会		
事業所名	グループホーム 双葉荘		
所在地	〒803-0275 福岡県北九州市小倉南区高野3丁目11番1号 093-451-2851		
自己評価作成日	平成25年04月02日	評価結果確定日	平成25年05月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シダプル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 25年04月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者一人一人の生活スタイルに合わせた日常生活が営んでいけるよう、ニーズの対応を早急に行うよう努めている。買物や散歩など、行きたいときに行きたい所へ行ける環境づくりを目指している。また、ご入居者の方々が日々の暮らしの中で、共通の話題を持って頂くことを目的として、全員で外出する機会を多くするよう配慮したり、近隣の住民でいらっしゃる生花の先生にお願いし、生花教室を月1回開催するようにしている。
認知症高齢者支え合いネットワーク「ふたばねっ」とも創設より3年目に入り、多種多様な催しを開催できるように努力している。昨年10月より地域の清掃活動を、第二双葉苑職員、双葉荘職員と連携して行っている。今後も、地域の中に溶け込んだグループホームになれるよう努めていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小倉南区郊外の自然環境に恵まれた、住宅地の中に、地域密着型特養と併設のグループホーム「双葉荘」がある。利用者と職員は、鶯の鳴き声を聴きながら、「日に日に上手になってきたね」と、批評しながらホームの一日が始まっている。施設長は、利用者の「自己選択」「自己決定」を最優先に、利用者の思いを聞き取り、実現出来るように努力を重ねている。併設施設との共同開催の夏祭りや餅つき大会は、地域の恒例行事として住民に浸透し、去年の10月から始めた地域清掃は、「きれいにしてくれてありがとう」と声をかけられた利用者、「双葉荘に、お世話になりたい」等、思わぬ反響で、地域との信頼関係が築かれ、交流の輪が広がっている。また、提携医による往診と、看護師と介護職員のチーム介護で、医療連携体制は、万全で、家族の深い安心に繋がっている「双葉荘」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	就業規則や日々の業務を通じて、個性(その人らしさ)と、尊厳を支えるケアを徹底している。職員やご入居者、ご家族の目の届く場所に理念を掲示している。	利用者の個性と尊厳を大切に、ニーズに沿った寄り添いのケアと、利用者、家族、ホームと地域との繋がりを大切にする事を理念に掲げ、玄関に掲示し、月に1度のミーティングで理念の確認をしている。職員は、利用者の、意向や思いに、早急に対応する事を心掛け、「その人らしさ」を尊重したケアに取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年10月より、地域の清掃活動を、併設施設である第二双葉苑と合同で行っている。また、「ふたばねっと」主催で開催する催しにも地域住民の方々にご参加頂いている。運営推進会議には、町内会長に参加して頂き、情報交換を行っている。	認知症高齢者支え合いネットワーク、「ふたばねっと」を3年前に立ち上げ、夕涼み盆踊り大会では、焼きそばを出店し好評であった。地域交流ホールを利用して、プラスバンド演奏やギターの弾き語り等、ボランティアの受け入れを積極的に行っている。昨年の10月からは、地域の清掃活動を単独で始め、「お茶でも飲みに来て下さい」と声掛けを行う等、地域密着型グループホームとして、交流の輪を広げている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、ご入居者の生活状況や、主な出来事をお伝えし、認知症の方々に対する理解を深めて頂けるようにしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、活動報告・生活状況等の情報交換・情報共有を行い、生活の質の向上に努めている。	会議は2ヶ月毎、定期的で開催し、利用者代表、町内会会長、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの現状や取り組み、課題等報告し、参加者からは、地域交流ホールや、AED、ふたばねっとの活用について、運営に関する積極的な意見が出され、実現に向けた取組みが始まっている。会議の中で町内会会長から、「お花見をしては？」と提案があり、近所の公園でお花見が実現した。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員1名に必ず参加して頂き、連絡を取り合っている。	行政主催の会議に参加したり、介護相談員の受入れや、運営推進会議に地域包括支援センター職員が毎回参加し、ホームの実情を理解し、提案や情報等出してもらい、連携が図られている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内部研修や、併設施設との全体勉強会の中で、すべての職員が身体拘束によって生じる身体的・精神的弊害について理解し、日々のケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、ミーティングで勉強会を行い、スピーチロックを含め、拘束が利用者にならず影響について職員全員が理解し、利用者が安全で、安心して暮らせるケアの実践を目指している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内部研修や、併設施設との全体勉強会の中で、すべての職員が高齢者虐待について理解している。虐待の現場を発見したら、管理者・市町村に通達するよう周知しており、管理者が虐待している場合にも行政等へ通達する旨を全職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、ミーティング時に話し合いの場を持ち、全職員に周知している。	現在、制度を活用している利用者はいないが、活用を考えられている家族と一緒に関係機関に出向き、相談を行っている。制度についての資料やパンフレットを用意し、ミーティングの中で説明し、職員が理解を得て、利用者や家族が必要とする時に、何時でも制度について説明し、活用のための橋渡しが出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書にて、十分に説明を行っている。また、疑問点についても十分に説明し、不安や不信感を与えないにしている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者の不満・苦情等、一人ひとりの話をいつでも聞ける環境づくりに努めている。各ご入居者担当職員が密に関わり、職員間で情報を共有し、改善するようにしている。また、苦情担当者・苦情箱を設置し、意見を言いやすい環境づくりに努めている。	玄関に苦情箱の設置や苦情相談窓口を掲示し、利用者や家族が、意見や要望が出しやすい環境を整えている。家族の面会や行事参加時、または電話で、出来るだけ利用者や家族の意向を聞き取る努力をしている。出された意見は、検討し、ホーム運営に反映させている。毎月、利用者の健康状態、行事報告、お知らせ、思い出の写真を掲載した「双葉荘だより」を送付し、家族から大変喜ばれている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の申し送り、月1回のミーティングにて意見や提案を聞ける体制を取り、反映させている。	職員会議を、毎月定期開催し(15時半から全員参加)、職員の意見や提案が出しやすい環境を整え、活発な意見交換の場となっている。職員の意見や提案は、「まずやってみよう」と迅速に実現に向けて取り組み、改善が必要な時にはその都度検討し、職員のやる気に繋げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇のほかに夏冬のリフレッシュ休暇を整備している。また、年度末に、表彰事業所・職員を選定し、表彰状と記念品の授与を行っている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人は性別・年齢等の制限を設けず、求職者全員の面接を行っている。各個人の得手不得手を理解し、その能力を活かしながら、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員ロッカーを男女別に整備し、休憩時間を確保し、リフレッシュして仕事に取り組む環境が整っている。職員の特技を活かした勤務体制や、希望休、リフレッシュ休暇等、柔軟に対応し、職員のやる気と能力を引き出している。また、職員の採用は、年齢、性別、資格等の制限はなく、人柄を重視している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ご入居者の人権を尊重する為、全ての職員に対して人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	職員は採用時やミーティングで、法令遵守や人権に関して繰り返し話し合っている。理念にもある利用者の、尊厳やプライバシーを大切に出来ているかを、常に職員全員で確認し、利用者が、安心して暮らせる環境作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員採用時にそれぞれの段階に応じた研修を設け、その内容をすべての職員に周知している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム大会に毎年参加している。全国のグループホーム事業所の職員が集まる場で、情報交換などを行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居者の想いや不安を個別にお聞きし、信頼関係の構築に努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や訪問で見学・入居依頼を受けた際は、相談を受け少しでも疑問や不安が解消されるよう支援している。見学時は管理者等、適切な職員が対応し、じっくりとお話を伺っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期面談において、ご本人の状況及びその周辺環境をお聞きし、出来る限り適切なサービス利用等を助言している。電話による問合せの場合は、なるべく来荘して頂き、見学・面談して頂くようお願いしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員採用時、新入職研修にて、常にご入居者とは対等であり、尊厳を持ってケアにあたるよう教育している。喜怒哀楽を共にし、時間を共有することで、支えあう関係作りに努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に一緒に食事を召し上がって頂いたり、散歩やレクリエーションに参加を頂くことで、自宅にご家族が訪問しているように感じていただくよう、職員と共に支えあう関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、入所していた施設、自宅での法事やお墓参り等にお連れし、馴染みの人間関係が継続していけるよう努めている。	利用者が以前通っていた馴染みの喫茶店や、「 の鍋焼きうどん」を食べに行ったり、自宅での法事やお墓参りへの同行等、利用者の思い出の場所、馴染みの場所に職員が同伴し、利用者が大切にしている馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の会話や交流の場面作り、楽しい雰囲気作りに努めている。仲の良いご入居者同士と一緒に過ごせるように配慮したり、孤立しがちなご入居者が輪に入れる機会を作る等、助け合い・支えあいの関係が築けるように支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご入居者においては、管理者、職員が時折、自宅訪問や、入院先の病院に訪問している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃からご入居者一人ひとりの想いをお聞きし、受け止め、実現できるよう支援している。	現在は、意向の表出が出来る利用者が多く、ニーズを出るだけ受け止め、早急に対応するよう努力している。新聞を見て、「この本が買いたい」、「映画を観に行きたい」等希望されると購入したり、映画鑑賞に出かけている。また、「水族館に行ったことがない」という利用者と一緒にモノレールとJRを乗り継いで、海響館に出かけ、同行した家族にも大変喜ばれた。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取り、ご本人との会話にて、これまでの暮らしを把握している。また、センター方式B-3シートを活用し、これまで歩んできた暮らしを理解するよう努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日その日の状況に応じ、ドライブや買物に出掛けたりしている。また、食事の後片づけ、洗濯等の家事を一緒に行い、ご入居者の持つ力を引き出し、発揮できるよう支援している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者の生活歴を十分に把握し、ご本人・ご家族・担当者・計画作成担当者が中心となり、適した介護計画を作成している。毎月のミーティングにてカンファレンスを開き、全職員の意見を吸い上げ、介護計画に活かしている。	日曜日の家族面会時に、職員が分担し、家族の希望を聴き取るようにしている。管理者は職員に、「記録は利用者のその時の思いである」と話し、「私の今日の出来事」に、出来るだけ利用者の言葉をそのまま記録するように徹底し、関係者で検討し、介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の緊急時や重度化に合わせ、家族と密に連絡を取りながら、その都度現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者が発した言葉をそのまま記録し、職員間での気付きに繋げている。日々のケアや介護計画に反映させる為、ご入居者それぞれの特徴や変化を具体的に記録している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設(地域密着型介護老人福祉施設第二双葉苑)との協力体制や共同行事の実施、同法人内の保育園・児童養護施設の行事参加により、グループホーム以外との関わりを深めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民や地域の商店等すべてが社会資源であり、散歩や買い物を行くことによって、個別の関係性の構築に努めている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者やご家族の馴染みのかかりつけ医の継続をして頂き、情報提供を行っている。各自の希望医療機関を把握し、必要時対応している。	利用者や家族の、希望を大切に、かかりつけ医の受診支援となっている。提携医療機関による隔週毎の往診と、併設施設との兼任の看護師による迅速な対応で、24時間の医療連携が確立し、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設(地域密着型介護老人福祉施設第二双葉苑)兼任の正看護師がご入居者全員の健康管理を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたご入居者には、職員が必ずお見舞いに行くようにしており、ご家族からの状況報告を受け、早期退院のための話し合いや協力を医療機関と行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に関する指針を定め、ご家族に説明をし了承を得ている。また、職員にも説明を行い方針を共有している。	医療連携体制を確立し、看取りの指針を作成し、利用者や家族の希望を聴きながら、重度化、終末期に向けた話し合いを行い、方針の共有に努めている。家族と協力し、利用者がいつまでも馴染みの地域の中で、安心して暮らせる環境の整備に努めている。また、これまで数名の看取りを経験し、「勉強させて戴き、ありがとうございます」という気持ちで見送って下さいと、管理者は職員に声をかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	けが・転倒・窒息・意識不明等の緊急事態発生時対応マニュアルがあり、全職員が内容を周知している。	/		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・災害等の緊急事態に備え、避難経路及び避難場所の確保をしておくと共に、すべての職員が誘導方法を周知している。			消防署の協力と指導を得て、年2回の防災訓練を実施し、避難経路、非常口、避難場所、非常用機器の確認と合わせ、職員全員で非常災害に備える取り組みが出来ている。また、非常食、飲料水の準備も併設施設と共同で行い、3日分の備蓄がある。夜間を想定した避難訓練と、町内会と合同で訓練等について検討中である。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員入職時に個人情報についての誓約書を取っている。職員は常にご入居者の人格を理解・尊重し、誇りやプライバシーを大切にしている。記録物や個人情報の取り扱い方法を全職員が周知している。	職員は利用者を尊敬し、家族のような関係を保ち、利用者一人ひとりのありのままの暮らしが出来るよう支援している。特に利用者に自由に過ごしてもらう事を心掛け、テレビを見ていて疑問に思った事を自室に帰って辞書で調べられる利用者等、居室で、自由に過ごされる事も尊重している。また、個人情報の記録の保管や、職員の、守秘義務の徹底も図られている。	/	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はご入居者の自己選択・自己決定を大切にし、それを実現できるよう支援している。			
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・食事時間・入浴時間等はなるべく希望に沿えるよう支援している。職員都合や業務優先にせず、ご入居者のペースに合わせるよう支援している。	/		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入居者一人ひとりの嗜好や個性を大切にしたい髪型・服装等のおしゃれを支援している。また、ご入居者の希望をお聞きし、訪問美容(散髪)の対応をしている。			
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者の出来る範囲で、食事の配膳、汁物づくり、片付けをお手伝いして頂いている。	利用者からの、「味が薄い」の声を受けて、併設施設の厨房食からモバイル食に変更したところ大変好評である。毎食の汁物は利用者と職員と一緒に作っている。「たこ焼きが食べたい」の要望からたこ焼きパーティを行ったり、餃子パーティやカレーパーティ、クリスマス会にはすき焼きを食べる等、利用者の食べたい思いを大切にした支援に取り組んでいる。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者に必要な栄養バランスとカロリーを把握し、提供している。また、各個人の食事量・水分量をチェックしており、個別に対応している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者の持つ力を活かしながら、口腔内の汚れや臭いが生じないように、毎食後口腔ケアを行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者一人ひとりの排泄パターンをつかみ、個別対応している。その方にあった下着・パットを使用し、快適に過ごして頂けるよう支援している。	排泄の支援は、利用者の自信を回復する手段として捉え、職員は利用者の排泄パターンを把握し、優しい声かけや早めの誘導で、トイレでの自立に向けた排泄の支援に取り組んでいる。状態が良くなればすぐに布パンツに替えるようにして、現在、日中は全員布パンツで過ごし、利用者の生きる喜びと自信に繋がる排泄支援に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を十分に理解し、予防と対応に努めている。食物繊維が豊富な飲食物を取り入れたり、便意を促す運動やマッサージをすすめたりと、安易に薬に頼らず、排便コントロールが出来るよう支援している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者の意思を必ず確認し、希望に沿えるよう支援している。入浴をゆっくりと楽しんで頂けるよう、マンツーマンで対応している。	入浴は、利用者の希望を優先し、毎日入る事も可能であり、好きな時に入って頂くようにしている。大きな窓から内庭が眺められる温泉のような浴室を設置し、季節に応じて、菫湯や柚子湯等の工夫をしたり、また、併設特養の檜風呂に案内する等、入浴を楽しむ事の出来る支援に取り組んでいる。入浴の時にお風呂の中で、利用者の本音が出る事も多く、職員は入浴時間を大切に利用者へ寄り添っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者の睡眠リズムを重視し、心地よい睡眠がとれるよう支援している。休息は日々の日課や疲労に応じて一服したり、心身を休める場を個別に設けている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご入居者が使用する薬の目的や副作用・用量や用法を把握しており、医師の指示通りに服薬できるように支援し、症状の変化を観察・確認している。また、誤薬の無いよう個別の薬箱を設置、与薬担当職員を決め、日付・名前を確認後と薬し、誤薬防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の家事のお手伝いをご入居者全員で行って頂いている。お手伝いを通してご入居者同士、職員との会話が増え楽しみが持てるように支援している。趣味の継続(絵を描く・クロスワードパズル)、買物やドライブ等外出の機会を作るよう努めている。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園まで散歩に出掛けたり、買物やドライブ等、できるだけ外出の機会を持てるよう支援している。	驚がさえずる環境で、散歩や畑仕事、買い物等は日常的に行われている。門司港ドライブ、北九州空港の足湯、農事センターの鯉のぼり鑑賞、皿倉山等、季節の花見やドライブ等、積極的に実施している。利用者一人ひとりに合わせた個別の外出支援にも力を入れ、利用者や家族に喜ばれている。今後、遠方への外出や、温泉への一泊旅行等を実現したいと検討している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者ご自身がお金を持ち、使う事の大切さを、職員が十分に理解しており、日常の金銭管理を行えるようご入居者の能力に応じて支援している。ご家族にもお金を持つ意味と必要性をお伝えしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人用携帯電話やホームの電話機にて、ご入居者自ら電話を掛けている。ご家族宛てに絵葉書や年賀状、暑中見舞いなどを書いてやりとりの継続を支援している。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は家庭的な雰囲気作りに努め、自宅にいるような快適さを感じて頂けるようにしている。中庭に季節の花を植え季節感が感じられるようにし、心地よい空間づくりに努めている。	地域から愛されるグループホームを目指し、出入りが自由で訪問しやすい地域交流ホールを備えた明るい清潔感に溢れた建物である。消臭効果のある珪藻土の壁、滑りにくい床材、落ち着いた照明の中、ソファや調度品が置かれ、天井には大きな鯉のぼりが飾られ、家庭的な楽しい雰囲気である。リビングにカーペットを敷き、靴を脱いで寛げるスペースを作り、利用者がゆったりと過ごせる共用空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でご入居者が一人になったり、気の合うご入居者同士で自由に過ごせるような居場所作りに努めている。プライバシーを確保しながら、安心して過ごせる環境作りに努めている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や、馴染みの生活用品・装飾品がそのまま持ち込まれ、自宅にいるような安心できる空間となっている。	居室は広く、利用者の馴染みの家具や仏壇、遺影、大切な物、家族の写真等持ち込み、利用者が本人らしく安心して暮らせるよう配慮している。また、室内には、トイレと洗面所を設置し、来訪者が利用者と気兼ねなく過ごせる、プライバシーを大切にしたいゆとりのある居室となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレ等に手すりを設置し、出来る限り自立した生活を送れる環境作りに努めている。また、ご入居者の動線上に危険なものを置かないよう環境整備に努めている。		